令和２年７月８日（水）　中日新聞　　中東遠　１８面

コロナ後 成長戦略意見

輝く「ふくろい」創生会議

アフターコロナの成長戦略について意見を交わす「輝く『ふくろい』まち・ひと・しごと創生会議」＝袋井市の袋井新産業会館で

地方創生に向けて産学官が連携して取り組みを進める「輝く『ふくろい』まち・ひと・しごと創生会議」のふくろい部会が六日夜、袋井市の袋井新産業会館であった。

静岡理工科大の野口博学長ら有識者のメンバー九人が出席し、アフターコロナの経済社会に向けた成長戦略について、原田英之市長はじめ幹部職員と意見交換した。

最初に原田市長が「今後の総合戦略をどう進めていくのか。市の取り組みへのヒントをいただきたい」とあいさつ。市側が第一期総合戦略の総括など地方創生の進捗状況を報告した後、出席者がコロナ禍の影響や現状認識、今後求められる中・長期的な施策の方向性について意見を交わした。

メンバーからは「リモート学習には限界を感じる。人と人との付き合いをどのように回復させるか考えていきたい」「飲食業界では客層を絞り、いかに満足していただくかが大切になる」「地域内消費を喚起する経済対策がさらに必要では」「大きな変化をビジネスチャンスと前向きにとらえるべきだ」などの声が上がった。

同会議は、ふくろい部会と首都圏で活躍する市にゆかりのある企業人らによる首都圏部会の二部会で構成。首都圏部会は今回、コロナ禍の影響で個別ヒアリングで実施する。

（土屋祐二）

この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。